

## 編集後記

歴史認識問題研究会は今、佐渡金山のユネスコ世界文化遺産登録をめぐる歴史戦に、全力で取り組んでいる。韓国や一部国内の勢力がいうような、佐渡金山における朝鮮人強制労働など存在しなかった。今号では、そのことを示す一次史料である平井栄一編『佐渡鉱山史』の該当部分を掲載した。これまで存在は知られていながら非公開だった同史料を、わが研究会が1月26日に入手して、ホームページにアップした。

佐渡金山問題でも他の歴史認識問題と同様に、まず、日本で「強制連行」「強制労働」というプロパガンダがなされ、それが韓国に伝わって、日本が攻撃されるというパターンが繰り返されている。2月16日に韓国政府機関である東北アジア歴史財団が、「日本の佐渡鉱山世界遺産登録強行にともなう対応と展望」セミナーを開いた。その第1発表者は小林久公・強制動員真相究明ネットワーク事務局次長だった。彼が提出した報告書に次の一節があった。

〈佐渡鉱山の世界遺産登録問題は、日韓の問題ではなく日本政府の問題である。2015年の明治の産業革命遺産の世界遺産登録以来、世界遺産を政権の独特な歴史認識・価値観の宣伝の場にしてきた。現在の岸田総理大臣も安倍氏同様に胸に青いバッチを着けているが、その歴史認識・価値観は、歴史の事実に基づかず、虚構を事実として捏造し、自己満足するだけのものである。〉

ブルーリボンバッチは北朝鮮による拉致被害者救出のシンボルだ。歴史問題とは全く無関係だ。総理大臣らは政府の拉致対策本部本部長としてバッチをつけている。拉致問題はひどい人権侵害だから、それを揶揄する小林氏の主張は「ヘイトスピーチ」ではないか。

本号では鼎談、Q&A形式による論文、書評の3編で楊尚真先生に登場いただいた。

高橋論文、椎谷哲夫論文まで通読すると、「グローバル性革命」という全体主義が世界を席卷している様子がよく分かる。学問の自由の危機を扱った西岡論文、言論の自由の危機を扱った小島論文を併せ読むと全体主義の怖さに背筋が寒くなる。事実に基づく反論を皆で協力して進めていくしか自由を守る道はないと決意を固めている。(西岡)

早いもので、本誌も遂に10号に達した。これまで玉稿をいただいた執筆者の皆様、ともに研鑽を重ねてきた役員と研究会メンバー、ご指導いただいた顧問の先生方、熱心な読者の方々、物心両面での支援者の皆様のおかげです。心から感謝します。

2月2日付産経新聞、3日付新潟日報に「歴史的事実に基づく反論をせよ」という内容の意見広告を、歴認研として出した。それに対して有難いことに、多数の方々からご支援の声と寄付をいただいた。多額の寄付を下さった方がいらっしゃるのだが、銀行振り込みのためお名前しか判らず、お礼をすることが出来ないで困っている。尊い寄付をいただいた方々に御礼申し上げます。

私事に亘り恐縮ですが、37年間奉職した明星大学を3月末に定年退職し、4月以降は歴認研に全力投球できることになりました。誌面の一層の充実を図りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。(勝岡)

## 歴史認識問題研究

(年2回発行)

第10号 (令和4年春夏号)

発行日：2022年3月18日

発行人：西岡 力

編集人：勝岡 寛次

編集部：歴史認識問題研究会

頒 価：1,000円

発行所：〒277-0065 柏市光ヶ丘2丁目1番1号

公益財団法人モラロジー道德教育財団

西岡 力 研究室

Tel：04-7173-3197 Fax：04-7173-3199

印刷所：株式会社 長正社